

平成27事業年度

監 査 報 告 書

(平成28年8月)

日本中央競馬会

監 事

平成27事業年度監査報告書

日本中央競馬会法第10条第4項の規定に基づき、日本中央競馬会（以下「JRA」という。）の平成27事業年度（平成27年1月1日～平成27年12月31日）における業務に関して監査を実施したので、その方法及び結果について以下のとおり報告する。

1. 監査の方法及びその内容

我々監事は、「日本中央競馬会監事監査要領」及び「日本中央競馬会監事監査実施基準」に基づき、平成27事業年度の監査計画書に従い、JRAの各部署を対象として定期監査を実施した。

具体的には、競馬場等の事業所については、競馬場全10場、本部付属機関全7機関（及び競走馬総合研究所常磐支所）及び場外勝馬投票券発売所11箇所を訪問し、場苑校所長（常磐支所においては支所長）及び場外勝馬投票券発売所長から直接説明を受け、必要に応じて書面監査及び現場監査を実施した。本部については、全14部及び関西広報室の部長・室長から直接説明を受け、必要に応じ

て書面監査を実施した。

また、役員会、経営委員会及びその他重要な会議に出席し、または重要な文書を閲覧して、J R A の意思決定過程を確認するとともに、役職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要により説明を求めた。

なお、監査を実施するに当たっては、法務部コンプライアンス推進室の協力を得た。

2. 監査の結果

平成 2 7 事業年度における J R A の業務に関しては、法令・規程その他の定めに従って適正かつ効率的に処理されていると認める。

また、コンプライアンスに係わる不適格事項は認められず、組織の管理及び運営は適正に実施されていた。

なお今回の監査においては、外部監査等で指摘のあった事項への対応状況、当該年度に発生した事案の検証並びに検証結果の組織全体への啓発状況、情報セキュリティ管理に関する意識及び実施状況、施設・設備の安全管理に関する意識及び実施状況、労働環境の整備・向上に関する意識及び実施状況について、特に重点

を置いた監査を実施したが、それぞれ適正な対応等が取られており、また意識の向上と必要に応じた管理及び整備の実施がなされていると認められた。

3. 監事からの意見

我々監事は、上記のとおり、平成27事業年度にJRAが実施した業務その他は適正に行われたことを認めるものであるが、これからもJRAの事業運営が周囲を取り巻く社会環境の変化に応じて適正かつ効率的に実施されるよう、以下により監事としての意見を付す。

(1) リスク管理の徹底について

平成27年度は、勝馬投票券の発売金が2兆5886億円余と4年連続で、またお客様総数が延べ1億6585万人余と2年連続で、それぞれ前年度実績を上回っており、JRAの業績は回復の傾向が見られる。

このような状況下において、JRAにはこれまで以上に経営リスクの分析と評価に努め、その存在が否定できない場合には必要な対応をとり、或いはその低減を図っていただきたい。

例えば、施設・設備については、今回の監査において所定の基準

を満たした改築・改修が行われていると認められたが、今後とも軽微な変化や事象にまで目を配り、安全確保の必要性が認められた場合には、その措置を講じてもらいたい。またその際は、予算執行に関して配慮を尽くすとともに、暫定的・応急的な対処を行った上で抜本的な対策を講じるなど、迅速かつ柔軟に対応することが望まれる。

また、最近の情報通信技術の急速な発展に伴い、一般にシステム障害や情報流出のリスクは日々高まって来ていると言える。J R Aでは、サイバー攻撃対策をはじめ様々な情報セキュリティ対策がとられているが、その実効性を維持するためには、情報端末を扱う職員のセキュリティ意識の徹底及び関連する知識・技術の向上を併せて図ることが必要である。そのための研修や訓練には組織全体で取り組み、またその効果も必ず検証してもらいたい。さらに、人事異動や職務変更があった際には、その都度改めて必要な説明や指導を行うなどして、知識不足や不注意によるリスクを可能な限り低減させておくことが望まれる。

J R Aは今後とも、その組織内外における様々な環境変化を敏感に感じ取りながら、その時々をリスクを怠りなくチェックし、必要

と判断されたならば躊躇なくその対応をとってもらいたい。

(2) 労働環境の向上について

今回の監査では、休日や休暇の取得あるいは時間外勤務などについて、全体として概ね適正に実施・管理されていると判断された。しかしながら、一部の事業所や特定の職種においては、休日や休暇の取得が一時的に困難となったり、あるいは長時間の時間外勤務が不可避となった状況も存在した旨の報告も受けている。また、職場内での人間関係のトラブルや過剰なストレスを抱えた職員の存在についても報告があった。

JRAの職員は、平日の平常業務と週末の開催業務という2種類の業務を毎週繰り返しており、週末の競馬開催に向けた移動も日常的である。さらに平成28年度には海外競馬の勝馬投票券を発売することも予定されていることから、今後さらに業務内容の複雑化や新たな課題などの負担を抱える可能性も認められる。

このような状況において、適正な労働環境を維持しまた必要に応じてその改善と向上を図ることは、職員の心身の健康を保ち、業務に対する意欲と組織に対するロイヤルティを高め、ひいては適正な業務の遂行と経営の効率性の向上に繋がるものと考え

る。そのために必要な労働環境の維持と向上については、それらを担当する部署の充実・強化を含め、組織を上げた一層の理解を求めるものである。

(3) 社会貢献の推進について

J R Aにとって、法令を遵守しつつ公正で魅力的な競馬を開催することはその中心的な使命であるが、併せてこれまでの競馬運営により培った知識や技術あるいは施設等を活用した社会貢献にも、自発的かつ積極的に係わることを期待したい。

J R Aはこれまでも様々な形で社会に貢献しており、またその意識は役職員全体に浸透していると認められるが、今日では企業や事業組織の社会的役割に対する国民の期待と評価はとみに高まって来ている。

このような状況において、競馬や馬に関連するわが国の文化や科学あるいは技術への貢献、動物福祉や環境保全あるいは生命教育といった分野における寄与など、J R Aならではの社会貢献が一層押し進められることを期待したい。



また、全国各地に所在する事業所や場外勝馬投票券発売所においては、その施設等をより積極的に活用することで、それぞれの

地域の特性に合わせた社会貢献が可能になると考えられる。

J R Aが今後とも組織全体の力を発揮できる体制の整備を進め、わが国における競馬と馬に関する分野の社会的リーダーとして、一層の社会貢献を果たすことを期待する。

平成28年8月31日

日本中央競馬会

監事	安齊	了	
監事	矢島		
監事	小谷	実可	